

第33回 現代世界の地誌的考察

■■ 現代世界の諸地域編 ■■

世界のさまざまな地域を見てみよう

～ヨーロッパ(1)～

監修・講師

加賀美雅弘

学習のねらい

ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合）による統合が進められている。かつて二度の世界大戦の戦場となり、大きな損害を受けたことから、ヨーロッパの国々は互いに協力することによって経済を発展させ、国際的な発言力を高めようとしている。国境を越えた人の移動の自由化や単一通貨ユーロの導入などによって、ヨーロッパはひとつの地域になるようとしている。

今回のポイント

- 結びつくヨーロッパ
- ヨーロッパの自然と農業
- 統合政策で進む地域振興

■■■ 結びつくヨーロッパ ■■■

EUは経済統合をめざしており、そのために加盟国間での関税を撤廃してモノの流通の自由化を実現させている。その結果、EU域内でそれぞれの国でつくられた商品を安く手に入れられるようになった。また、国境を越えた人の移動を自由化させたことによって、国境を越えた買い物容易に行われるようになったほか、より高い賃金を求めて隣国に毎日通勤する人々が増えている。さらに単一通貨ユーロを導入する国が増えており、為替の変動に関わりなく加盟国間での経済活動が行われるようになった。国境を越える際に換金する必要もなくなり、EU域内では国内にいるのと同じように過ごせるようになりつつある。いまやEU域内では国境は実感しにくいものになっている。鉄道や道路、空路の発達によって多くの人やモノが短時間に移動できるようになったほか、インターネットなどによって大量の情報が行きかっており、EU加盟国の結びつきはますます強まっている。

■■■ ヨーロッパの自然と農業 ■■■

ヨーロッパでは、イタリアやスペイン南部など地中海地方は夏に雨が少なく、冬に雨が降る地中海性気候がみられる。そこで冬に小麦をつくり、夏は乾燥に強いオリーブやぶどう、かんきつ類をつくる地中海式農業が卓越し、パスタやワインを特徴とする食文化がみられる。一方、北西ヨーロッパでは、暖流である北大西洋海流と偏西風の影響を受けて比較的温暖で湿潤な西岸海洋性気候が広がる。イギリスやフランス北部、ドイツなど広い地域においてこの気候を利

用して、小麦やライ麦、じゃがいもなどの食料と、大麦やえん麦、てんさいなどの飼料を栽培し、豚を飼育する混合農業が行われている。ここではソーセージなど豚肉料理とビールが目立つ食文化がみられる。また、デンマークから北ドイツ、オランダ、イギリス南部にかけての北海沿岸部では牧草を栽培して乳牛を飼育し、牛乳を生産してバターやチーズに加工する酪農が盛んである。

■■ 統合政策で進む地域振興 ■■

EUは統合のために域内において安全で安心できる豊かな暮らしをめざしており、そのためにさまざまな補助金を用意している。たとえば、安定した食料供給を確保して安全な暮らしを実現させるために、積極的に農業を支援するための共通農業政策を実施しており、より質の高い農産物を生産し、環境を保全しながら持続可能な農業を行っている農家や農村に補助金を提供して、安定した食料供給を確保している。また、EUは原産地呼称制度によって伝統ある農産加工品の保護も行っており、上質の食品の生産が続けられている。農業以外でも、EU域内における地域振興のための補助金を投入している。道路などの交通や通信施設の整備、環境保全、失業対策、観光地化などに向けて多くの補助金が用いられ、経済の発展が期待されている。国境を挟んだ隣国同士の地域振興にも補助金が出されており、地域が相互に密接な関係をもつことによる発展が期待されている。